

取組3 地域資源の活用と協働

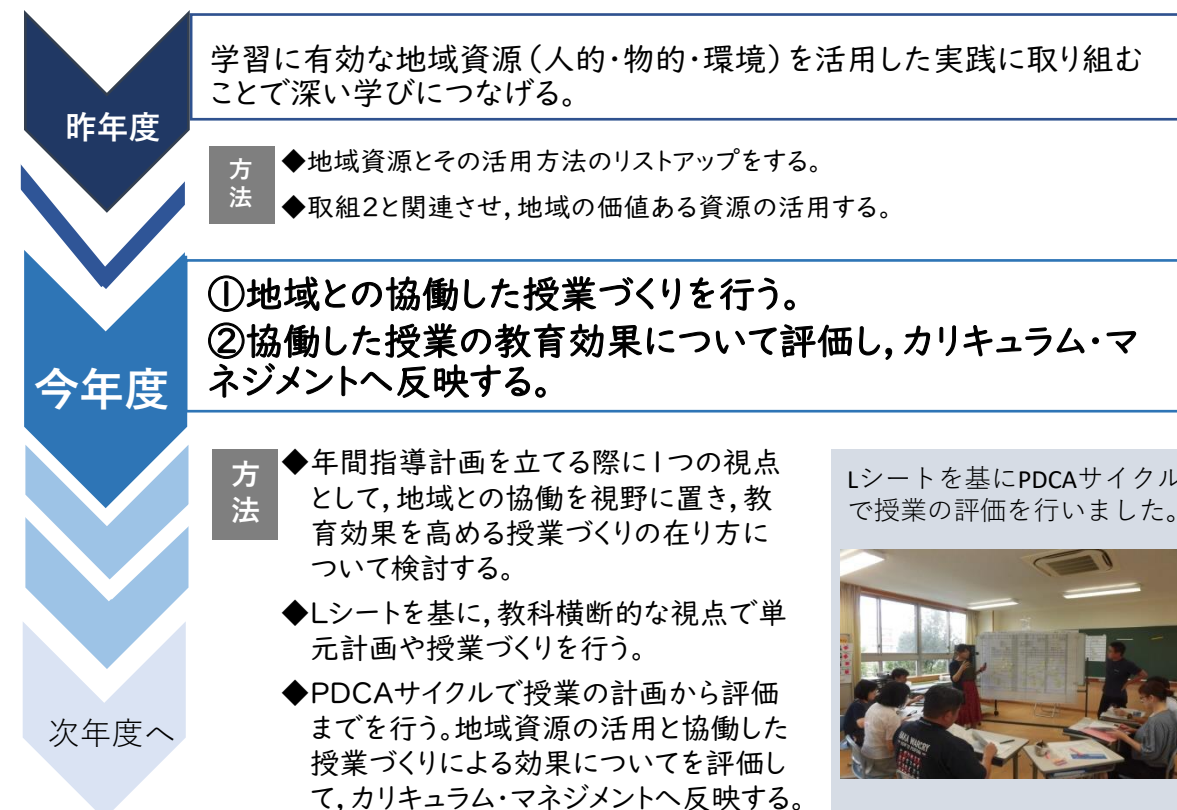
～地域の方とふれあい、つながり、かなえる授業づくり～

倉田 沙耶香，岩下 佳美，山田 哲博，古里 王明（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

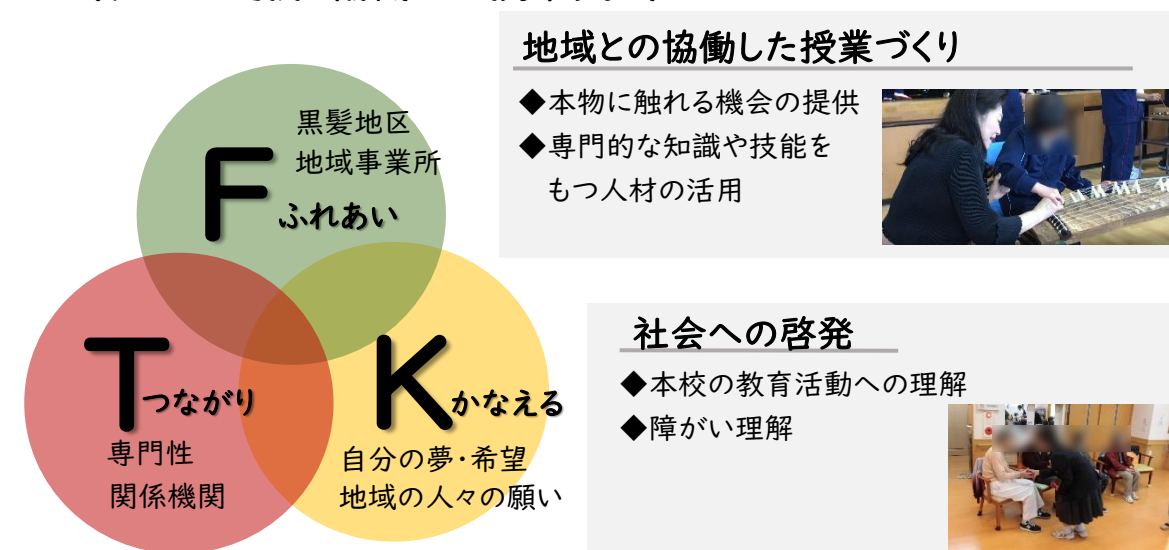
Introduction | 地域資源の活用から協働へ

これまで各学部では、周りにある貴重な地域資源（人的、物的、環境）を活用し、取組2「授業改善・開発」と関連させながら、主体的・対話的で深い学びの実現につなげたことで、児童生徒の学習効果が高まってきた。また、地域の方との関係が深まることで、本校の教育活動や障がいへの理解啓発につながってきた。

令和元年度は、児童生徒のさらなる学びの広がりや深まりと、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、年間指導計画や単元（題材）計画を立てる段階で、地域資源との協働を視野に入れ、教科間の連携を図り、教科横断的な視点で地域と協働した授業づくりに取り組んできた。



地域社会と連携・協働した授業実践



Model I	小学部 音楽科「音楽会をしよう」	F T K
Keyword	地域のニーズ 近隣施設との交流（黒髪しょうぶ苑）	
Model II	中学部 社会科／総合的な学習の時間「バスで地域にでかけよう」	T K
Keyword	産交バスとの協働 公共交通機関・公共施設の活用	
Model III	高等部 社会科「選挙の学習」	T K
Keyword	主権者教育 NIE	

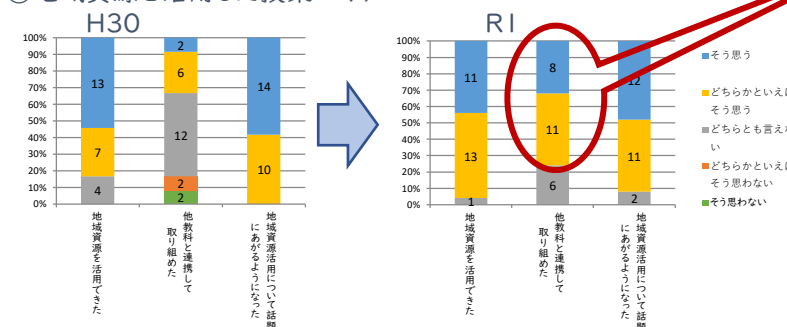
※各学部の取組参照

Result | 地域資源を活用，協働した取組をして

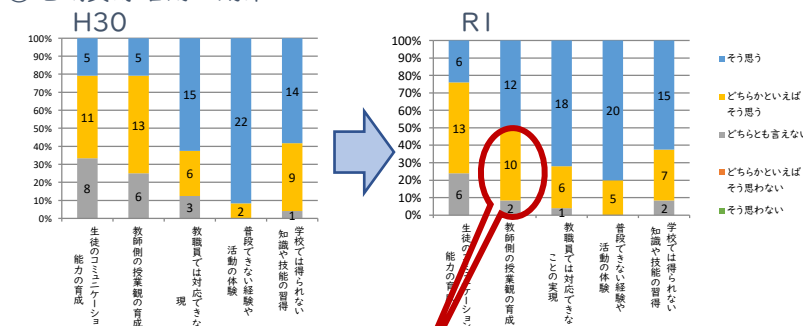
地域資源活用についてアンケート結果

地域資源の活用について本校職員（25人）にアンケート調査を行った。

①地域資源を活用した授業づくり



②地域資源活用の効果について



カリキュラム・マネジメントの視点から他教科と連携した取組が増えた。

- ①L研を教科横断的な視点で行った成果である。
②学びを深めたり、学習の質を高めることを考えた時に、教科等の関連を考えるようになった。

○地域資源を活用・協働した授業づくりを行ってみて良かったこと（成果）	n=25	人
学校では得られない、体験的・専門的に学ぶことができる	5	5
意識の高まりや興味・関心の広がりを感じる	5	5
相手との関わりが増えた	4	4
学ぶことへの興味やワクワク感の高まり	3	3
学習効果の高まりを感じる	2	2
資源を知り、教師自身の地域理解につながった	2	2
活用・協働できる場面や活動を考えるようになった	2	2
他者への意識が芽生えた	2	2
体験的な学習を通して主体的な姿が見られる	1	1
外部機関と連携することで学習意欲が高まった	1	1
複数連携することでの相乗効果が期待できる	1	1
総合的な学習において、技能教科の内容を深める取組が行えた	1	1
申請すると無料で利用できるものも多い	1	1
貴重な経験・体験ができる	1	1
知的障がいの児童・生徒にとって、体験的な活動は印象に残りやすい	1	1
△今後も地域資源を活用・協働した授業づくりを行うためには（課題）	n=25	人
打ち合わせ等の時間確保	4	4
教師が地域資源をもっと知ること	2	2
先方との様々な調整	1	1
学習内容の精選と効果的な活用	1	1
まとめや振り返りの必要性	1	1
授業内容が本来の目的とずれないようにする	1	1
先方への説明（障がい理解と目標の明確化）	1	1

協働した効果

- ◆「教師側の授業観」の育成につながった
- 授業の作り方が変化
- ①授業内容や活動の幅
- ②教科としての見方の深まり

- ◆般化をねらい、より主体的な学びへ
- 人的、物的、環境を活用することで、体験的に学べることが増えた
- *知的障がいの児童・生徒の学び方に合っている

- ◆学びの可能性の拡がり
- 学びが深まりにくかった学習内容への新たなアプローチの方法

Conclusion | 地域資源の活用と協働による授業づくりが有効

「活用から協働へ」と取組が進んだことで、本物に触れ、専門的な知識等を学びながら、協働して授業づくりをすることは、教師にとっても授業観の育成につながる貴重な機会であり、大きな成果と言える。協働した授業づくりを行い、PDCAサイクルによって、その教育効果について評価を行い、次年度の年間指導計画を作成した。このように、カリキュラム・マネジメントへ反映させたことで、より教科としての見方が明確化し、他教科との連携した取組が可能になった。一方で、協働したからこそ、障がいのある児童生徒について相手にどのように伝えるか、どのようなことを学ばせたかなどの一段階踏み込んだ課題も見えてきた。今後も生徒の学びがより深まるために、目標を明確化し、情報を共有しながら、地域と協働して授業づくりを行っていくことが大切である。